

離被架(リヒカ)に似たベッド上で使う自助具の製作

1 相談内容

相談者は冬場、室内の暖房器具だけでは寒いと感じるため、毛布を掛けて寝ておられます。しかし毛布を身体に掛けると、それが重く感じ、脚などを動かすことができないので、何とかワクのようなものを作って、その上に毛布を掛けて保温したいと要望されました。

2 利用者プロフィール

50 代男性、運動ニューロンの障害によって両上下肢機能障害のため、身体障害者手帳 1 級であり、妻と娘 2 名、合計 4 人で暮らしています。本人は、ほとんど全てベッド上での生活で、通院時には車いすに座ることがあります。介護は妻のほか、ヘルパーに入ってもらって食事、入浴、排泄等の介助をしてもらっています。

3 対応

医療用のリヒカではサイズが小さく、寝返りや脚を伸ばしたときにぶつかるため、本人のベッドに合った大きなサイズで製作することにしました。材料はイレクタパイプとジョイントを使用し、2 種類の大きさに 3 台を製作しました。1 台ではなく、3 台にした理由は、脚に当たらないように位置を調整できるようにしてほしいとのことと、ヘルパーが動かしやすいようにしてほしいと要望があったからです。腹部用に 40(縦)×85(横)×30cm(高さ)で 1 台、脚部用に 30(縦)×85(横)×30cm(高さ)で 2 台を用意しました。



3 台の自助具を設置



毛布を掛けた様子

4 結果

本人は、冬場でも暖かく体温を保つことができ、毛布が直接、身体にかからないため、脚も動かして、身体への負担がなくなったと好評でした。問題なく使用できているものと思われます。